

平成29年度 農産園芸推進方針

1 推進方針

「攻めの農林水産業」推進方針（平成26年～30年）では、本県の農林水産業を成長産業化するため、収益と働く場を生み出す「産業力」強化と人口減少社会に対応した「地域力」強化の両輪で進めることとしており、農産園芸部会は、「安全・安心で優れた青森県産品づくり」を担う。

近年の異常気象の多発や流通の多様化による販売面の競争激化、さらにはTPPやEPAの交渉など経済のグローバル化が進展するなかで、農業所得を安定的に確保していくためには、環境変化に対応できる生産・出荷体制の整備と、国の米政策の見直しや国際化に対応した取組が急務となっている。

このため、TPP関連政策大綱に基づく施策や経営所得安定対策等を活用しながら、気象変動や多様な需要に対応できる販売力のある産地の育成と生産基盤の強化、輸入農産物に打ち勝つための農産物の低コスト化と高品質化に取り組むとともに、主食用米から高収益作物へ転換するなど水田フル活用ビジョンに即した振興作物の普及・拡大を進め、農業所得の安定確保を図ることとし、次の事項を重点的に推進する。

[共 通]

- (1) 経済のグローバル化に対応できる産地の育成強化
- (2) 気象変動に対応した生産指導の徹底
- (3) 健康な土づくりを基本とした安全・安心で美味しい農産物の供給
- (4) 農業所得の安定確保に向けた水田農業の確立

[水 稲]

- (5) 「『あおもり米』活性化推進運動」による県産米の更なる評価向上
- (6) 稲作経営の安定・強化

[野菜・畑作物]

- (7) 野菜等の生産・販売力の強化
- (8) 大豆・小麦・工芸作物等の低コスト、高品質安定生産の推進

[花 き]

- (9) 花き産地のパワーアップによる生産・需要拡大

[冬の農業]

- (10) 無加温ハウス栽培等の生産拡大による冬の農業の推進

2 重点推進事項

〔 共 通 〕

(1) 経済のグローバル化に対応できる産地の育成強化

T P PやE P A等に備え、輸入量の増大や価格低下に対応できるよう産地の体質強化を図り競争力を高めていく。

ア T P P関連対策等に関する情報の収集と共有化

イ 産地パワーアップ事業等を活用した生産体制の強化

(2) 気象変動に対応した生産指導の徹底

地球温暖化の影響等により気象変動が拡大し、異常気象が発生する可能性が大きいことから、これらに迅速に対応し、農産物の生育確保と安定生産を図る。

ア 気象予報等を活用した的確な情報収集と指導情報の迅速な発行

イ 異常気象に対応した技術指導の徹底

ウ 簡易ハウス導入支援時の共済加入の必須化などによる気象災害に備えたリスク管理の推進

(3) 健康な土づくりを基本とした安全・安心な農産物の供給

消費者から選ばれる産地を目指し、有機農業等環境にやさしい農業やG A Pの普及・拡大などを一層推進し、安全で安心な農産物供給の取組を進める。

ア 総合土壌診断の実施や有機質資源の活用促進、「あおもり土づくりの匠」の実践指導などによる「健康な土づくり」の推進及びエコファーマーや有機農業などの環境にやさしい農業の取組拡大

イ 農作物病虫害防除指針に基づく農薬適正使用の推進やポジティブリスト制度に対応した農薬ドリフト防止対策の指導徹底

ウ 短期暴露評価導入に伴う農薬使用方法の生産者及び取扱業者等への周知徹底

エ ながいもネットやマルチ等被覆資材など使用済プラスチックの適正処理とながいもネットの前処理に対する腐熟促進剤の活用促進

オ 土壌くん蒸剤の代替技術の確立

カ G A Pの普及・拡大

(4) 農業所得の安定確保に向けた水田農業の確立

水田農業を取り巻く様々な環境変化に対応して、経営所得安定対策等の関連施策を活用し、主食用米から高収益作物へ転換するなど水田フル活用ビジョンに即した振興作物の普及・拡大を進め、農業所得の安定確保に向け水田農業の早期確立を図る。

ア 需要に応じた主食用米の生産

イ 産地交付金を活用した飼料用米等の非主食用米の取組の促進

ウ 産地交付金を活用した野菜等の高収益性作物への転換の促進

エ 担い手を中心とした大豆の高品質安定生産

〔水 稲〕

(5) 『『あおもり米』活性化推進運動』による県産米の更なる評価向上

ア 『『あおもり米』活性化推進運動』による良食味・高品質生産の推進

県産米の評価向上を図るため、県産米7・8・9作戦による適正な肥培管理や水管理、斑点米カメムシ防除、適期刈取等の徹底を図り、良食味・高品質生産を推進する。

- (ア) 気象変動に対応した栽培指導の徹底
- (イ) 地域ぐるみでの斑点米カメムシ類の防除
- (ウ) 食味等にこだわった米の生産拡大

イ 安全・安心な米づくりの推進

県産米の評価向上につなげるため、夏季冷涼で病害虫の発生が少ないなどの本県の優位性を活用し、消費者にアピールできる安全・安心な米づくりを推進する。

- (ア) 青森クリーンライス・有機栽培・特別栽培米の取組強化
- (イ) 栽培履歴記帳の徹底と取引等の記録の保存

ウ 「青天の霹靂」のブランド確立に向けた生産体制の強化

平成27年にデビューした「青天の霹靂」の評価を確実なものにするため、生産者及び作付面積が大幅に増加する中であっても、生産者全員が出荷基準をクリアするための生産技術指導の徹底と食味・品質管理体制を強化するほか、良食味・高品質生産に対する意欲向上を図る。

- (ア) 集荷団体が行う良食味・高品質生産指導への支援
- (イ) 生産指導プロジェクトチームによる指導強化
- (ウ) 農協等の食味分析計導入への支援
- (エ) 食味向上のための栽培技術改善
- (オ) 良食味・高品質生産の気運醸成
- (カ) リモートセンシング技術によるタンパクマップ・収穫適期マップを活用した生産指導
- (キ) 実需者からの要望に対応した特別栽培米導入への支援
- (ク) ブランド化推進協議会による生産及び宣伝・販売対策の推進

エ 多様な需要に応じた米づくりの推進

地産地消の取組や多様な需要に対応するため、低アミロース米「ほっかりん」等の特色ある米づくりを推進する。

- (ア) 「ほっかりん」、「あさゆき」等、低アミロース米の産地育成
- (イ) もち米や酒造好適米の需要に応じた安定生産の推進

(6) 稲作経営の安定・強化

ア 稲作の省力・低コスト化の推進

稲作経営の安定・強化に向け、省力・低コスト化を推進するため、直播栽培の普及拡大と疎植栽培、地下水水位制御システム等新技术を普及する。

(ア) 直播栽培の普及拡大

(イ) ほ場の大区画化・汎用化の推進

(ウ) 新技术（疎植栽培、地下水水位制御システム等）の普及

イ 飼料用米の生産技術向上とその他新規需要米の取組推進

(ア) 地域の作付条件に応じた飼料用米の生産技術向上

(イ) その他新規需要米の取組事例の収集と提案

[野菜・畑作物]

(7) 野菜等の生産・販売力の強化

ア 収益性の高い複合経営への転換促進

稲作農家の所得確保を図る経営複合化を促進するとともに、野菜産地の維持・拡大に必要な労働力確保の取組を支援する。

(ア) 水田農業複合化による野菜産地の育成

(イ) 労働力調整補完システムの構築

(ウ) ほ場整備を実施した地域におけるたまねぎ等の新たな品目の導入

イ 生産・販売力の強化に向けた産地体制の整備

指定産地や特定産地等の高品質・安定生産に向けた生産力の向上を図るとともに、多様な販売チャネルに対応できる地域特性を生かした特産野菜や加工・業務用野菜の産地づくりを進め販売力を強化する。

(ア) 指定産地等の共販率向上等の取組に対する指導・支援

(イ) 地域の特産野菜の産地化、水田を活用した野菜の新規取組に対する指導・支援

(ウ) 加工・業務用野菜の取組拡大に向けた栽培技術の実証・指導

(エ) 野菜等の高品質、省エネ、省力化等に向けた機械やパイプハウス等の導入支援

(オ) 夏秋いちごの安定生産に向けた高温対策技術等の普及・拡大

ウ ながいもの生産性向上や担い手の育成・確保による産地力強化

生産者の所得の安定を図り、安心してながいもづくりができる産地を目指す「あおもりながいも産地力強化戦略」の取組を推進する。

(ア) 優良種苗供給体制の強化

(イ) 種いも不足に対応した栽培技術指導の強化などによる生産者の技術力向上

(ウ) 「ながいもの達人」などによる若手生産者等の育成

エ にんにくの品質向上による産地力の強化

土壌病害虫や流通過程での品質低下防止に向けた対策技術の実用化を進め、日本一のにんにく産地の維持・発展を図る。

(ア) 土壌病害虫の汚染度診断技術等の確立

(イ) 品質低下要因の特定と対策技術の開発

(ウ) 優良種苗供給体制の強化

(8) 大豆・小麦・工芸作物等の低コスト、高品質安定生産の推進

大豆・小麦・工芸作物等の経営安定を図るため、生産技術研修会等の開催による基本技術の徹底や高品質・安定生産技術の普及、団地化・組織化等による低コスト栽培を推進する。

ア 水田の汎用化や基本技術の徹底、先進技術の現地実証などによる高品質安定生産の推進

イ 認定農業者や集落営農組織など担い手を中心となった、効率的な機械・施設利用による低コスト生産の推進

ウ 関係団体との連携による工芸作物の高品質安定生産の推進

[花 き]

(9) 花き産地のパワーアップによる生産・需要拡大

県産花き産地の持続的な発展を図るため、新規作付者の育成・確保を進めるとともに、産地が抱える課題を自らが解決していくよう誘導し、生産・需要拡大に繋げる。

ア 推進チームによる新規作付者の育成・確保

イ 産地自らが行う課題解決に向けた取組に対する支援

ウ 県産花きの魅力のPR

[冬の農業]

(10) 無加温ハウス栽培等の生産拡大による冬の農業の推進

無加温ハウス栽培や露地栽培の作付拡大のほか、地域に適した新たな品目の導入等により冬の農業の産地化を目指す。

ア 無加温ハウス栽培や露地栽培の作付拡大

イ 冬の農業の新規取組者の確保

ウ 地域に適した新たな品目の導入